

身近な人々、社会及び自然を自分との関りで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとする事



例えば、内容(2)家庭と生活の自分ができる家庭での仕事の実践発表会の場面では

教員が「見方・考え方」を意識しないと・・・

友達に家で頑張ったことを教えてもらいましょう。

上手に発表しているな。

家で頑張ったんだな



子供たちは、何に着目して、何を考えるのかを意識せず、聞いて、見て、考えていた。

子供が「見方・考え方」を働かせると・・・

「〇〇名人」になるためのコツはどんなところだろう。

しわを伸ばしながらたたんでいるな。自分が頑張ったことをやってみせるとわかりやすいな。



子供たちは、何に着目して、何を考えるのかを意識して、発表を聞く(見る)ことができる。

身近な生活に関わる見方・考え方とは・・・

子供たちの問い:「〇〇がうまくできるようになるためのコツはなんだろう。」

「しわを伸ばしながらたたんでいるな。ほかにもコツがあるかな。コツを聞いてみようかな。」  
(コツを発見することに着目して)

「たたむ順番がわかったぞ。ぼくのたたみ方と違うな。どちらがきれいにたためるかな。」  
(コツを発見し、自分と比べている。)

「服のはしっこをそろえてたたんでいるな。私もやってみたいな。家でも役に立ちたいな。他に、コツはないかな。」  
(自分との関わりを考えている)



友達の発表から「〇〇のコツ」だけでなく自分との関わりを考える子供の学びの姿

例えば、「振り返り」の場面で、自分の考えを振り返ることで

コツについて発見したことだけでなく、「自分もうまくなりたい。」「挑戦してみたい。」「家庭でも役に立ちたい。」等の意見が出てくる。

子供たちは、身近な生活に関わる見方・考え方をより意識して生かせるようになる。